

コギャルの仕事として援助交際の出現に対する  
消費主義者の影響

**KOgyARU NO SHIGOTO TOSHITE ENJOKōSAI NO  
SHUTSUGEN NI TAISURU SHOUHISHUGISHA NO  
EIKYOU**

小論文



**LELIS DEVIANA**

レリス デヴィアナ

**620900511**

文学部日本語学科

スラバヤ1945年8月17日大学

**UNIVERSITAS 17 AGUSTUS 1945 SURABAYA**

**2014**

# 要旨

題名 : コギャルの仕事として援助交際の出現に対する消費主義者の影響  
名前 : レリス デヴィアナ  
学生番号 : 620900511  
学部 : 文学  
学科 : 日本語学科  
大学 : スラバヤ1945年8月17日  
年度 : 2014

本エッセイのテーマとしては「コギャルの仕事として援助交際の出現に対する消費主義者の影響」である。本エッセイの目的はコギャルの分類、消費主義者に関係するコギャルのファッション、コギャルの仕事の定義と動機を明らかにする。

援助交際は「援助：扶助」と「交際：交わり」の二つの言葉から成り立っている。交わりの扶助として概略的に翻訳した。援助交際は金銭や高価な贈り物をもろうために年上の男性と付合って14から18歳までの女子学生の文化である。援助交際は日本人の道徳的な崩壊を現象として見られているユニークな社会的関係の形である。援助交際で働くことは簡単な仕事でたくさんお金を得ることができると考えています。援助交際は、消費のライフスタイルを維持するためにセックスを売って働いて「コギャル」とよく呼ばれている日本の若い女性に影響を与える消費主義者の文化を生んだポップカルチャーに由来する。

結果としては援助交際は、遊ぶことによって行われていた仕事として考えられたり、孤独の感情を克服するために活動したり、そして、彼女たちは欲しがっているすべてを取得するための手段である。彼女たちが今まで取得していなかった注目とステータスシンボル、自由、快樂を追求するだけである。